

移住は簡単に

決められない!

前橋移住コンサルジュに聞いてみよう

知らない土地へ居を移すことは誰にとっても不安なものです。前橋市では、移住を検討する方のそんな不安を解消するために様々な取り組みを行っています。皆さんの移住をサポートする前橋移住コンサルジュはその代表的な存在です。



私に何でも聞いてください!

前橋移住コンサルジュ 鈴木正知(すずき・まさとも)

東京都町田市出身。上野動物園や葛西臨海水族園の飼育員、長野県戸隠イースタンキャンプ場管理人 インタープリター担当などを経て、平成18年に前橋市へ移住。市内23の行政区を集めて地域活動の情報共有をする「前橋地域づくり連絡会」や「前橋の地域若者会議」を立ち上げて以来、前橋市の地域づくりに携わる。平成27年より、前橋市の移住コンサルジュに就任。



前橋の良さは、実際に暮らさないとなかなか見えてこない部分もありますが、中心市街地であるまちなかやその周辺での「まち暮らし」、里山での「里暮らし」、赤城山での「山暮らし」から自分のライフスタイルに合った場所を選び、「あなたの思うままの暮らしが実現できるまち」なのではないかと思えます。実際、これまで前橋を案内した方々も、「前橋って意外と都会」「病院が多いね」「子育てしやすいような環境がそろっているなあ」「こだわったお店があつていいね」「市街地から車で10分で、ホテルが棲む里山があるなんてなんか不思議」「赤城山の南面に来ると、まちの夜景がすっごくキレイ」など、それぞれの感性に合った前橋の良さを見つけているようです。

Q2



前橋市の中心市街地は、JR前橋駅と群馬県庁を結ぶ約2キロのちょうど中間にあります。「中心市街地は駅前でしょ?」と思うかもしれませんが、そうじゃないのが前橋なんです。かつて生糸で栄えた時代に、貨車で生糸を横浜まで運ぶために、汽車の煙で「糸が汚れないように」の配慮もあったとか? 生活からシルク文化が薄らいだまちなかにも、様々な形の市民活動が見受けられるのは、嬉しい限りです。今だからできることもたくさんある「まえばし暮らし」。かつて栄えていた時代を知っていて、「昔はよかった」と話す商店主や住人も多い一方、その暮らしぶりや好景気を想像すらできない世代や移住組は、違うところからまちの魅力を感じています。その魅力とポテンシャルが、若者たちを惹きつけ始めているのではないのでしょうか。

Q3



「裾野は長し赤城山」。上毛かるたのひとつにもあるように、とっても長い裾野を持つ赤城山。その山頂から南面を一気に下ると、関東平野の始まりの地・前橋の市街地が現れる。この、山と市街地との距離感が前橋の特徴なんです。例えば、2月のある日のJR前橋駅周辺の気温は6度。それが百名山の一つ赤城山黒檜山では氷点下12度! 当然、山頂の大沼は全面結氷。氷厚30センチですよ。そんな中でも、ワカサギの穴釣りで大沼は大賑わい。都心から100キロ圏内、市中心部から車で30分も走ればこんな体験ができるのです。なんて素敵なことでしょう。それと、日本一小さいスキー場もこの山に。家族にピッタリ!パウダースノーで滑り心地がいい!うちの子どもたちも小さい頃になっぶり遊ばせてもらいました。

Q4



実は移住って、自分が思う理想の場所にただ住むだけじゃない。そこで暮らす人たちが暮らしの中で、時間をかけて育てて来た文化そのものに触れ加わることもあるんです。まずは、自分の理想から一歩引いても、周囲の人たちと寄り添って地域を知り、文化を共有しようとする。そんな姿勢があるだけでも、後の暮らしが大きく変わってくるように思います。「都心の便利な生活から離れてまで郊外に移住して、何をしたいの?」移住相談の場面で僕が必ず聞くことです。色々な考えを聞くけど、まず足を運んで、実際に見て、感じて、経験してほしい。移住を支えてくれる人との縁を見つけて、地域へ入って行く覚悟も出来たら、あとは移住するだけ。自分を信じて憧れの地に飛び込んでみましょう。もちろん、困った時は移住コンサルジュに相談してくださいね。